SAM ジャンクショナルターニケット

止血 ＆ 骨盤固定

TOHATSU
救助・救急・装備・支援
Rescue Apparatus ＆ Disaster Prevention

接合部（鼠蹊部・腋窩部）での止血＆骨盤固定

①2 つの機能
ー接合部 (鼠蹊部・腋下部）での止血
ー骨盤固定（サムスリングと同じ仕様）

②素早い装着ー 25 秒以下
③作業が容易ー 4 ステップで装着
④軽量ー 488 g

● 固定力調整バックル
正確な力加減で固定し緩みを起こさない。「カチッ」とクリック音で停止位置を知らせ、ベルクロでストラップを確実に留める。

● TCD(Target Compression Device)
適切な大きさ、位置変更・移動可
リリーフバルヴは膨らみ過ぎを防止する

● ハンドポンプ
取り外し可能
TCD を素早く膨らませる
活動性出血をコントロールする

認定
CoTCCC（Committee Tactical Combat Casualty Care)
USSOCOM（United States Special Operations COMmand)

機能デザイン

SAM ジャンクショナルターニケットは通常のターニケットでは止血できない出血をコントロールするためにデザインされた。（たとえば、IED の爆発による創傷、体幹に近い位置での下肢の切断など）
この創傷においては、時間が大事な要素である。SAM ジャンクショナルターニケットはコンパクトで使用が容易、素早く装着できる。（25 秒以内）
TCD を創傷位置の近位に配置し、出血が止まるまで膨らませる。 2 つの TCD で左右両側の血流の閉塞が可能。
堅牢にデザインされ受傷者の搬送中でも確実に装着を維持する。
さらに、SAM ジャンクショナルターニケットは骨盤骨折を安定させる。最近の研究では、IED タイプの出血性創傷はしばしば骨盤骨折を併発していた。[1] サムスリングと同じ機能のオートストップバックルは臨床的に正確な力で常に安定・固定する。

【構成品】

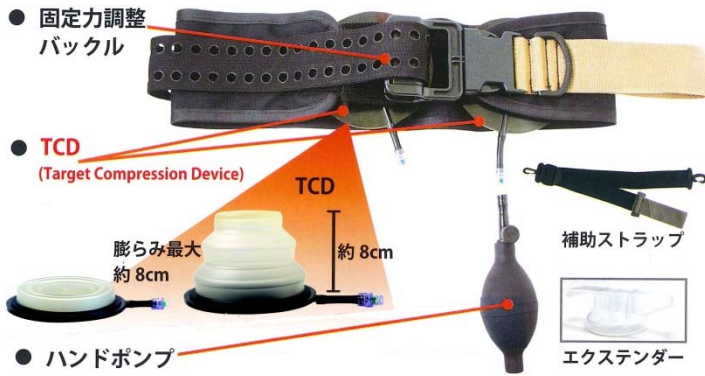
パーツ名	数量	サイズ	材質
ベルト／バックル		10×142 cm	コーデュラ、ナイロンウェビング／ポリアセタール
TCD(Target compression Device)	2 個	径 11×H2 cm	ポリウレタン、ポリカーボネート
Extender	1 個	10×5×3 cm	ポリカーボネート
ハンドポンプ	1 個	径 5×H13 cm	非フタル酸ポリ塩化ビニル
補助ストラップ	1 個	5×92 cm	ナイロンウェビング

【参考文献】 1 Davis JM,Stinner DJ,Bajey JR,Aden JK,Hsu JR.
Skeletal Trauma Research Consortium. Factors associated with mortality in combatrelated pelvic fractures.J AmAcad Orthop Surg.2012:20 Suppl 1:S7-12

＊価格・仕様・デザインは予告なく変更されることがあります。　＊一般医療機器　製造販売届出番号：13B3X00138000033

トーハツ株式会社
＜営業品目＞ ●消防ポンプ ●小型消防車 ●救急･救助用資機材
●防災用品 ●船外機 ●プレジャーボート ●和船
＜営業ブロック＞ ●防災九州 ●防災関西 ●防災中部
●防災中央 ●防災東北 ●防災北海道
本社 防災営業部 〒174-0051 東京都板橋区小豆沢 3-5-4
TEL: (03)3966-3115 FAX: (03)3966-2951

No.150807-3

【取扱説明書】 SAM ジャンクショナル ターニケット

重量：488g

一般医療機器製造販売届出番号：
13B3X00138000033

パーツ名	数量	サイズ	材質
ベルト/バックル		10×142 ㎝	コーデュラ、ナイロンウェビング/ポリアセタール
TCD	2	径 11×H2 ㎝	ポリウレタン、ポリカーボネート
エクステンダー	1	10×5×3 ㎝	ポリカーボネート
ハンドポンプ	1	径 5×H13 ㎝	非フタル酸ポリ塩化ビニル
補助ストラップ	1	5×92 ㎝	ナイロンウェビング

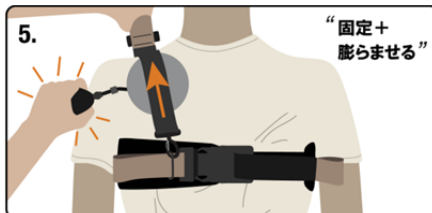
■処置が困難な場合の止血法

腋下部での止血

SJT を受傷者の両腋下のできるだけ高位置に当てる。D リングを創傷側のネック側面のラインに揃える。バックルを留め、“クリック”音がするまでブラウンハンドル引いてベルトを固定する。

TCD にエクステンダーを取付け補助ストラップのブラウンベルクロ面に上図のように装着する。

上図のように補助ストラップのクリップ(大)を身体前面の D リングに取付ける。

上図のように背面のコードの出来るだけ中央線上に補助ストラップのクリップ(小)を取付ける。

ブラウンハンドルでベルトをしっかり固定し、止血するまでポンプで TCD を膨らませる。搬送中は常に受傷者をモニターし必要に応じて SJT を調整あるいは取り外す。

鼠径部での止血

ベルトを受傷者の下部へスライドさせ、圧迫部位に TCD を配置させる。創傷に直接当たるときは、キトサム 100(止血包帯材)または滅菌ガーゼで被覆する。両側を止血するときは TCD×2 を用いる。

“クリック”音がするまでブラウンハンドルを両側へ水平に引く。“クリック”音がしたらベルトをベルクロに押し付けしっかり固定する。ベルトを固定する時にもう一度“クリック”音がする場合がある。

TCD を配置させた状態でベルトのバックルを留める。

止血するまでポンプで TCD を膨らませる。搬送中は常に受傷者をモニターし必要に応じて SJT を調整あるいは取り外す。

骨盤骨折の固定

受傷者のパンツのポケットを空にし、臀部周辺に何もないことを確認する。TCD を装着しないで受傷者の大転子(臀部)の下へベルトをスライドさせる。

ベルトのバックルを留める。

“クリック”音がするまでブラウンハンドルを両側へ水平に引く。“クリック”音がしたらベルトをベルクロに押し付けしっかり固定する。ベルトを固定する時にもう一度“クリック”音がする場合がある。
長時間使用する場合は受傷者の皮膚の状態並びに骨盤の整形に伴う変形など異常がないかを観察する。
取り外しはベルトのバックルを外す。

使用上の注意
- 4 時間以上、装着しないこと
- 救命処置施設あるいはそれに準ずる施設でのみ取り外すこと
- 高度変化などで加圧が必要な場合は、ハンドルポンプで空気を送ること

Reference：
1 James C. Krieg, MD, et al; Emergent Stabilization of Pelvic Ring Injuries by Controlled Circumferential Compression; A Clinical Trial Journal of Trauma 59;659-664, 2005.
2 Davis JM ,et al: Trauma Research Consortium . Factors associated with mortality in combat related pelvic fractures. Surg.2012;Suppl 1:S7-12.
3 Eastridge BJ, et al: the future of combat casualty care. J Trauma Acute Care Surg. 2012 Dec; 73(6 Suppl 5) :S431-7.
4 Stannard A, Morrison, et al The epidemiology of noncompressible torso hemorrhage in the wars in Iraq and Afganistan. J Trauma Acute Care Surg. 2013 Mar; 74(3):830-4.